

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

校内別室を利用している生徒は「別室利用をしながら、通常学級にも行くことができる生徒」、「短時間なら登校できる生徒」、「クールダウンのために一時的に利用する生徒」のように、様々な事情がある。校内別室を利用している生徒にはそれぞれの目標、例えば「教室に○時間行ってみよう!」や「週に△回は校内別室に登校しよう!」、「遅れてでもいいので□時までには登校しよう!」等があり、目標の達成に向けて一人一人が自分と向き合っている。利用生徒も、各自の目標を尊重し合いながら、居心地よく日々を過ごすことができている。



#### 【取組2】(B中学校)

校内別室は定期利用に加えて、一時的にクールダウンできる居場所としても提供し、生徒が日々登校する気持ちを支えている。

また、体育大会の種目に「生徒会種目」があり、生徒が発案した競技(生徒・教員・保護者等の参観者が関わる交流企画)を実施した。運営した生徒らは達成感を感じ、競技した生徒もコミュニケーションが深まり、生徒だけでなく教員・地域も連帯できた企画となった。学校組織全体できずなを深める機会となった。

#### 【取組3】(C中学校)

中央委員会において、「6校時の体育の授業後に体育着下校の可否」について生徒から提案があり、可決された。内容は、緩和策と強化策が共に盛り込まれており、中央委員会の生徒らが多角的に思考していた。また、自治活動による愛校心の高まりにもつながっていた。

#### 【取組4】(D中学校)

校内研修において、生徒指導提要で示された内容を巡回先の教員に紹介。「自己存在感の感受の促進」、「共感的な人間関係の育成」、「自己決定の場の提供」、「安心・安全な居場所づくり」を意識した授業づくりの説明を行った。

また、本校は「魅力ある学校づくり」の校内研究も行っており(主題:自己効力感を高め、学び続ける生徒の育成)、分かる授業を目標とした作業指示の精査を教員一同で深め、実践し続けている。

#### 【取組5】(A中学校)

長期休業期間に市内巡回教員が集まり、本市の実態に即した内容も追加し、不登校の理解を深めるための研修動画を作成した。(不登校に関する基礎知識編・未然防止編・初期対応編・長期化対応編)

この動画を閲覧しながら補足を加える形で研修会を実施した。グループワークも実施することで、日ごろ対応する不登校事例の好事例を、教員間で共有した、不登校の理解をより一層深めることができた。

## 多様な学びの場を確保する取組

### 〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

#### 支援会議（B中学校）

学年教員・SC・特別支援教室担当教員・巡回教員らが情報入力する共通フォーマットに記録を残し、職員全員で情報共有している。支援会議も、「特に指導方針を共有したい生徒」に時間を多く割き、関係する参加者から様々なアセスメントを行うことで、適切な支援方針を決定している。

#### アウトリーチによる支援（E中学校）

登校が難しい生徒宅へ始業前に家庭訪問し、一緒に登校する取組を毎週行っている。登校できない週もあるが、「標準服に着替えておきましょう。」「朝食を済ませておきましょう。」といった小さなステップの指導を積み重ねることで、生徒の生活習慣形成を促している。

#### 校内別室における支援（E中学校）

毎日午前9時から午後3時まで開室している。大規模校なこともあり利用者が多いため、ゲーム等で交流を深めたい生徒のための部屋と、静かに勉強したい生徒のための部屋の2室を提供している。登校時に生徒の意思を確認し、一日の過ごし方を自己決定できることを大切にしている。ゲームは特別支援教室で用いられるコミュニケーションを必要とするものを多く置いている。また、巡回教員が勤務する日は、校内別室に通う意思のある生徒宅へ訪問し、一緒に話しながら歩いて登校している。この登校支援により、学期中に一度も登校できていなかった生徒が登校できるようになるなど、校内別室の存在が生徒の居場所となっている。

#### デジタル機器を活用した支援（C中学校）

授業支援ツールで校内別室を利用する生徒の出席状況を入力し、教職員で情報共有している。出席の状況をオンライン上で確認でき、対応しやすい。また、校内別室ではオンライン学習ツールの利用生徒が多く、学習支援を行っている。

#### 関係機関との連携（D中学校）

自宅の部屋から出ることが難しい生徒宅へSSWと共に家庭訪問を続けている。SSWからは医療面でのアプローチ、巡回教員からは進路面でのサポートをし、役割を分担して支援している。家庭訪問の際に、会って直接話をする 것도難しい状況があるが、訪問を続けることで少しずつ関係を構築している。

## 成果

支援の結果、一定数の生徒が学校復帰できた。巡回校教員・行政職員等と連携をとれて進められたことが要因として考えられるので、今後も連携強化に努める。

## 課題

巡回教員は週1回の支援のため支援を行った後1週間期間が空く。支援内容を巡回校教員と密に共有する必要がある。